

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 26 年 3 月 20 日 (2014.3.20)

【公開番号】特開 2013-93839 (P2013-93839A)

【公開日】平成 25 年 5 月 16 日 (2013.5.16)

【年通号数】公開・登録公報 2013-024

【出願番号】特願 2012-194352 (P2012-194352)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

G 0 3 B 15/00 (2006.01)

G 0 3 B 17/56 (2006.01)

G 0 3 B 17/02 (2006.01)

G 0 3 B 17/55 (2006.01)

【 F I 】

H 0 4 N 5/225 E

H 0 4 N 5/225 C

G 0 3 B 15/00 S

G 0 3 B 17/56 H

G 0 3 B 17/02

G 0 3 B 17/55

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 1 月 30 日 (2014.1.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

レンズを有するカメラと、
前記レンズの前に透光性カバーを有する第 1 の筐体と、
前記第 1 の筐体内に前記カメラを支持し、前記透光性カバー側に間隙を有して包囲する第 2 の筐体と、
前記第 2 の筐体と前記レンズの鏡筒との間に、前記間隙から前記透光性カバーに向けて前記第 2 の筐体内の空気を流出可能とする空気流路と、を備え、
ファンおよびヒーターを用いずに前記透光性カバーの前記カメラの撮影方向の部位の曇りを低減させるカメラ装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のカメラ装置であって、
前記第 2 の筐体は可動自在に支持されるカメラ装置。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のカメラ装置であって、
前記第 2 の筐体内に発熱部材を有し、前記発熱部材による暖気を前記空気流路に流出可能とするカメラ装置。

【請求項 4】

請求項 3 に記載のカメラ装置であって、
前記発熱部材は、少なくとも撮像素子を駆動させる回路基板であるカメラ装置。

【請求項 5】

請求項 1 ないし請求項 4 のうちのいずれか 1 項に記載のカメラ装置であって、
前記第 2 の筐体は、前記透光性カバーに沿うように可動自在に支持されるカメラ装置。

【請求項 6】

請求項 1 ないし請求項 5 のうちのいずれか 1 項に記載のカメラ装置であって、
前記第 2 の筐体は、前記レンズの周囲に間隙を有して覆う壁部を有し、前記壁部は、撮影方向調整時の把持部を兼ねるカメラ装置。

【請求項 7】

請求項 6 に記載のカメラ装置であって、
前記壁部は、円筒形状であるカメラ装置。

【請求項 8】

請求項 1 ないし請求項 7 のうちのいずれか 1 項に記載のカメラ装置であって、
前記壁部の先端部が、前記レンズと前記透光性カバーとの間に配置されるカメラ装置。

【請求項 9】

請求項 8 に記載のカメラ装置であって、
前記壁部の先端部が、撮像にケラレが生じない前記レンズからの突出位置に配置されるカメラ装置。

【請求項 10】

レンズの前に透光性カバーを有する第 1 の筐体と、
発熱部材を包囲する第 2 の筐体と、を備え、
前記第 2 の筐体は少なくとも一つの開口部を有し、
前記開口部は前記レンズの近傍に設けるカメラ装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】削除

【補正の内容】